



平成 22 年 2 月 5 日

各 位

会 社 名 東洋製罐株式会社  
代 表 者 名 取 締 役 社 長 金子 俊治  
(コード番号 5901 東証第一部・大証第一部)  
問 合 せ 先 常務執行役員総務部長 清水 泰行  
(T E L 03-3508-2113)

### 特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 10 月 30 日に公表した平成 22 年 3 月期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）の業績予想を修正するとともに、平成 22 年 3 月期第 3 四半期において計上することとなった特別損失および第 4 四半期に発生が見込まれる特別損失について併せてお知らせいたします。

#### 記

##### 1. 特別損失について

平成 22 年 3 月期第 3 四半期において計上することとなった特別損失および第 4 四半期に発生が見込まれる特別損失は以下のとおりです。

※（2）～（4）の金額は概算

	連結	個別
(1) 関係会社株式評価損 関係会社貸倒引当金繰入額	— —	1,603 百万円 937 百万円
(2) 事業構造改善費用	500 百万円	500 百万円
(3) 関係会社整理損失引当金繰入額	350 百万円	650 百万円
(4) 土壌改良費用 地中障害物撤去費用	600 百万円 150 百万円	600 百万円 150 百万円

##### (1) 関係会社株式評価損・関係会社貸倒引当金繰入額

当社の連結子会社であるペットリファインテクノロジー株式会社の財政状態を鑑み、当社が保有する同社株式について関係会社株式評価損 1,603 百万円および同社向けの貸付金に関して関係会社貸倒引当金繰入額 937 百万円を平成 22 年 3 月期第 3 四半期の個別決算において特別損失に計上いたします。

なお、本特別損失につきましては連結業績に与える影響はありません。

##### (2) 事業構造改善費用

当社グループは、事業再編の一環として金属缶事業等における業務の集約および合理化を推し進めております。当該事業再編の実施にあたり、平成 21 年 3 月期において事業構造改善費用を連結で 2,125 百万円（うち個別で 1,639 百万円）計上しておりますが、平成 22 年 3 月期第 4 四半期において、連結・個別ともに追加で約 500 百万円を事業構造改善費用として特別損失に計上する予定です。

### (3) 関係会社整理損失引当金繰入額

当社の連結子会社である株式会社本間鉄工場の解散にともない、平成22年3月期第4四半期において、連結で約350百万円、個別で約650百万円を関係会社整理損失引当金繰入額として特別損失に計上する予定です。

本件につきましては、本日公表いたしました「子会社の解散に関するお知らせ」をご覧ください。

### (4) 土壌改良費用・地中障害物撤去費用

当社の旧東京工場跡地にかかる土壌改良費用約600百万円および地中障害物撤去費用約150百万円を平成22年3月期第4四半期において連結・個別ともに特別損失に計上する予定です。

## 2. 業績予想数値の修正

(金額の単位：百万円)

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	680,000	12,000	12,500	3,500	17.00
今回発表予想（B）	687,000	15,500	16,500	7,000	34.00
増減額（B－A）	7,000	3,500	4,000	3,500	—
増減率（％）	1.0	29.2	32.0	100.0	—
（ご参考）前期実績 （平成21年3月期）	733,746	9,246	7,070	△8,895	△43.20

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	326,000	3,000	8,000	3,500	17.00
今回発表予想（B）	328,000	4,500	9,500	3,500	17.00
増減額（B－A）	2,000	1,500	1,500	—	—
増減率（％）	0.6	50.0	18.8	—	—
（ご参考）前期実績 （平成21年3月期）	353,043	2,543	7,295	△4,329	△21.03

#### 修正の理由

通期連結業績につきましては、売上高は、主に飲料容器および鋼板の販売が増加する見通しであることから、前回予想を上回る見込みです。営業利益および経常利益は、売上高の増加にともなう利益の増加およびグループ全体のコスト削減効果等により、前回予想を上回る見込みです。当期純利益につきましては、上記1. の特別損失が利益の押し下げ要因となりますが、売上高の増加にともなう利益の増加の影響などにより、前回予想を上回る見込みです。

通期個別業績につきましては、売上高は、主に飲料容器の販売数量が増加する見通しであることから、前回予想を上回る見込みです。営業利益および経常利益は、売上高の増加にともなう利益の増加およびコスト削減効果等により、前回予想を上回る見込みです。当期純利益につきましては、経常利益の増加など利益の押し上げ要因がありますが、上記1. のとおり特別損失を計上する予定であることなどから概ね前回予想通りとなる見込みです。

以上の理由から、平成21年10月30日に公表いたしました平成22年3月期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）の通期連結業績予想および通期個別業績予想を修正いたします。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上